



花の巻
人

^ 5
1139
67



5
1139
67



伯後

游戲三昧院

世間の事一先任務のしるし梅園
花不のしるしつらあきの色一
い地一服のしるしつらあきの色一
船中のつらあきの色一

おのれおのれおのれおのれおのれ

菊月みねのよの太羽さし
梅と花と

あまのこささしつらあきの色一

梅

名簿

杖の五枚	指やま	かき	電	大羽
名月	やま	木	女中	さ
物	やま	木	あ	さ
				さ

安藤

二京の人へ
 さい
 名簿
 杖の五枚
 指やま
 かき
 電
 大羽

杖の五枚
 指やま
 かき
 電
 大羽

杖の五枚

杖の五枚
 指やま
 かき
 電
 大羽

杖の五枚
 指やま
 かき
 電
 大羽

皇江新...
~~~~~

~~~~~

白子松...
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

了令...
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

Handwritten text in Arabic script, possibly a title or header.

Handwritten text in Arabic script, likely a date or specific reference.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or subject.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or note.

Handwritten text in Arabic script, possibly a small note or mark.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or subject.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or specific reference.

周防 (Suō) - A region name in Japan.

想宗行

危朝

照臨の光に照らされし御子の御養と云

御子御孫の御養と云

里紅

名月の光と御宗の御養と云

昇式

灯の光と御宗の御養と云

扇得

ちの光と御宗の御養と云

糸畑

ちの光と御宗の御養と云

糸

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

ちの光と御宗の御養と云

酒酌くや〜八重もあまらる  
隣の如くは此の如く  
内と云ふは〜あまらる  
〜あまらる〜あまらる  
高き〜あまらる〜あまらる  
甲と云ふは〜あまらる  
多〜あまらる〜あまらる  
幸〜あまらる〜あまらる

甲〜あまらる〜あまらる  
川と云ふは〜あまらる  
わ

名源

桐の如くは〜あまらる  
藤の如くは〜あまらる  
名月や〜あまらる  
中流や〜あまらる  
舟

相やういふの事なほけの枝 文琳  
 何士のまはるゝかまの枝なほけ 可白  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山

一 節の節の中

花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山

豊之石

花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山  
 花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山

花のさしあはるゝ花の枝なほけ 兼山



名取のち―天宮宮と信じてまねた  
 ね松の二海とゆるゆる―こころ  
 小宮とまゝく西の方よりまゝ  
 お青の宮とまゝゆるゆるとまゝの  
 お撲とまゝゆるゆるとまゝの  
 らつとまゝゆるゆるとまゝの

海もゆるゆるとまゝのねのね

小宮とまゝく西の方よりまゝ  
 葉のつ子とまゝゆるゆるとまゝの  
 お撲とまゝゆるゆるとまゝの  
 らつとまゝゆるゆるとまゝの

小宮とまゝく西の方よりまゝ  
 葉のつ子とまゝゆるゆるとまゝの  
 お撲とまゝゆるゆるとまゝの  
 らつとまゝゆるゆるとまゝの  
 ねのねとまゝゆるゆるとまゝの  
 まのまゝとまゝゆるゆるとまゝの  
 まのまゝとまゝゆるゆるとまゝの  
 まのまゝとまゝゆるゆるとまゝの  
 まのまゝとまゝゆるゆるとまゝの

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or section header.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script, appearing as a list of items.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

石の多かりしをくちのき

〜

五箇の頭陀の結か〜神まきり ぬま

丁住よと向日和や神おくり 念よ

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

お〜

〜

〜

〜

〜

〜

おのほしむるきくさのさむらひ

大門口のまへに  
松浦の中流に  
ちかき水に  
いさよのさむらひ  
しむらひのまへに  
ふかき水に  
いさよのまへに  
ふかき水に

おのほしむるきくさのさむらひ

肥後

おのほしむるきくさのさむらひ  
ちかき水に  
いさよのまへに  
ふかき水に

おのほしむるきくさのさむらひ

かたしむるきくさのさむらひ

おのほしむるきくさのさむらひ

源  
行

あまのまひち神は清く

神垣のつゆも心きりさや栞ぬま

あふまらふく

みづ枯や木念の月れを東雨

神を月のまらふし小治の  
とを平たふし遊んで

風のふりかこはきさくぬまぬ

神まよりふ野上あそぶ

あふくらくし栞杷心ほくや竹の園

短歌行

加十

山の名とさくみまぬ可あつふ

たぬきさぬね松の山あ 里江

あま清くはるまの内まのまき 為重

あまのゆしけはまぢり 栞市

おぼろ

おぼろ

けしきくくちそねも満の月  
 道奥の曙もさめぬさ  
 遠くはあまのそらもあかり  
 暮らりくくおぼろの山  
 年かりてさあきらふら  
 女中の中へ方の砦あり  
 曉鐘とかがりよしの女  
 市路の風中よ祈りあはれ

白雲あふれ雲下南のやま  
 清き水にうらみのこころ  
 春とくさるる花のさくら  
 馬こころの細心のこころ  
 春あふれ花の白雲のさくら  
 春あふれ花のさくら  
 春あふれ花のさくら  
 春あふれ花のさくら

おぼろ

おぼろ

神代卷

十三

入るる心もあはれおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

神代もあはれおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

護身行

其の

十月廿二日

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

〜〜〜おぼゆるおぼゆる

神代卷

十三

くまのちと摘まのくく一也 行

竹岸江よりてしとくくくく 羊

さのるちとくくくくと輝く一 帛

きくくくくくく城のえ的 帛

絹くくくくくくくくくく 角

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 羊

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くくくくくくくくくく 帛

くく

くく



名録

萬入とよきし山あり鶴の意 加下  
 山ありて深てや城の神 伊市  
 ありぬとやちとやちと花胡蝶 野角  
 雲山のぬきとよきし新の身 赤河  
 雲火や妙なるよりあり 金羊  
 山のちよとよきとやちと城 和吹  
 下とぬと線と雲とやちと花のぬ 万重

山ありて深ておちの儀あり 邦孝  
 下とぬとよきとよきと山儀 勉ら  
 下とぬとよきとよきと山儀 二平

旅意文通

雲とよきし山ありて深て 宇麻  
 雲とよきし山ありて深て 治圭  
 雲とよきし山ありて深て 赤河  
 雲とよきし山ありて深て 野角  
 雲とよきし山ありて深て 和吹  
 雲とよきし山ありて深て 金羊  
 雲とよきし山ありて深て 万重



乃ち... 放たの... 中...  
... 係... 視...  
... 地... 遊...  
... 言...  
... 乃

乃ちの... 乃

十月... 乃...  
... 乃...  
... 乃...  
乃

乃... 乃

乃

乃... 乃...  
乃

ねえとさくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく

七、鳥やちとさくねえとさくねえとさく

探頭ハニヤニヤ

ねえとさくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく

ねえとさくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく

八、ねえとさくねえとさくねえとさく

ねえとさくねえとさくねえとさくねえとさく  
さくねえとさくねえとさくねえとさく

九、ねえとさくねえとさくねえとさく

ねえとさく

ねえとさく

抄

中二流と云ふは、  
~~~~~

~~~~~

晩涼齋記

其の中二流と云ふは、  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

奇むきと名けしるぬま子の国さ  
不束の宮書よふく宮の宮はふく

金土庵や牡丹す日のぼせき

話不

里わさよらけのぼけとやさきしき一の徳助の  
月あしんあき一春のそまの二とも錦子  
あき年のらあきとあき〇一竹まきまの  
徳助よりあきとあきの

首集とてしる

別海よきんあきはあきまのあきあ十

あつりけきとあきああ 野角

あきあのらあきあああ 北市

あきあのらあきああああ 北市

あきあのらあきああああ 北市

あきあのらあきあああああ 北市

あきあのらあきああああああ 北市

あきあのらあきあああああああ 北市

あき

あき











あつたるをよむに  
つらき心なきに  
さるる心なきに  
さるる心なきに

### 旅籠

早月のとて  
くさくさ  
あつたるをよむに  
つらき心なきに  
さるる心なきに  
さるる心なきに  
さるる心なきに  
さるる心なきに  
さるる心なきに

あつたるをよむに

里紅

あつたるをよむに

辰朝

あつたるをよむに

辰朝

あつたるをよむに

辰朝

あつたるをよむに

辰朝

あつたるをよむに

招神のちと一而も新集者 埒  
内定の智あるも集者おや 也  
お集りは後のかつらう 也  
煮ちんちんの煮りしり 也  
お集りお集りお集り 也  
る士のいふは馬のいふ 也  
云傳の乳母もあらはく 也  
煮ちんちんちんちん 也

きんちんちんちんちん 也  
お集りお集りお集り 也  
きんちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也  
煮ちんちんちんちん 也

煮ちんちん

煮ちんちん







三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三十一



セツ標頭

白仕山

つと山や紅くらの女セツ

柳浦

松さあし柳くくや軍むく

文字団

権のちがよ軍の行軍やふまの軍

赤ら軍

くろ路のりや赤らのも馬

赤崎

船崎や不しは崎く書むく

直向川

直向川や赤ら公のよ女よ軍

柳浦

子孫も柳よしたや軍の浦つと

柳浦

赤らくくく赤の浦や軍まはく

三

三

余自  
詠二枚

筆二枚

筆重のたつちしりし筆の神 代研

筆書二枚

絢々筆書二枚のくみちやあまの筆 筆柳

文月中の二日あつしは信濃のよのよをたあつち  
く下つてあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

らうとくまに神風の雲あふくすちのたのしみ  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの  
死の海は深きとて世の世の世の世の世の世の世

秋のちかよふあはれは秋のちかよふあはれ

あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの  
文月のよき世のふもとのふもとのふもとのふもとの  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの

今志がーアもあふさく免さや 尾鳥  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 文琳  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 可白  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 冠式  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 飛如  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 眞雪  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 百保  
あつての雲のふもとのふもとのふもとのふもとの 雪山

雪山

雪山

本

川のらよ萩のらよや原の物 誠出書上修

川端やまわらへてゐる夢の心 夢

了よ竹枝のそけや信のこ 信

月とくや雪の業の後のらよ 雪

山歌やまのきと夢の 山

竹とまの 竹

色か 色

〜

歌子の竹枝とて

夢の歌とて

山歌

夢の竹のそけや原の物

川端かたの夢の心 夢

山歌

竹とまの

山歌

夢の竹のそけや原の物

本

山

熊鷹の面をぬきしむるに日

望月といふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに

後虫のちやねとく日おと

いふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに

熊鷹の面をぬきしむるに日

望月といふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに

熊鷹の面をぬきしむるに日

望月といふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに  
ゆるうきにといふはあつた月をいふに二三日おれに

熊鷹の面をぬきしむるに日

松

下

重頼之人の詞をよまの

長行のよみつけりて

長行

大垣運中

之位

旅の整もろちけあふ

あふ山吹のほも白雲

下は原車と橋よ月さして

旅と想とみほめてやれ

いさなのあふも女とあふ

かきよやうふ世の月さして

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

あふのあふもさふの風さ

松

下

五

五

お清のしらとて細のほろお

飛節と海とほくはき

月とていふはかへく

みよのちとてはく

おふのしらとてはく

車とてはく

湯をたてはく

念佛とてはく

おふくしらとてはく

きりけとてはく

節子とてはく

はれとてはく

さあくとてはく

浦園とてはく

さあくとてはく

地のやうとてはく

五

五

釋父の...の...  
五

自新...の...  
雅

...  
社

母...  
五

...  
夕

...  
五

...  
行

馬...  
五

...  
五

...  
布

...  
有

...  
物

...  
五

...  
五

...  
推

...  
五





若下

若下

何れも一人の古来の心も

松の心も古の心も

侍清者録

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

松の心も古の心も

高麗師の白々と巻下しむる  
長連の首と侍の侍

そののまゝ心ちらゝ、物知らず 陸中

歸卷

七月の中はねの暮高麗園に歸る  
かゝるうらやむ折もあゝわらわら  
連中の侍もけしきあつて二と侍も  
不いふと掃ちて

ねと高麗はるるもさう——まゝさう

御歌

小方連中

ちまよ、侍白やとくして無常 退く

高よ、わくまよ七月の御高れ 退く

侍侍、侍侍、侍侍のりらか 侍侍

侍侍、侍侍、侍侍のりらか 侍侍

侍侍、侍侍、侍侍のりらか 侍侍

侍侍、侍侍、侍侍のりらか 侍侍

ものゝこゝろのまゝに  
こゝろのまゝに  
ふ月山

山縣連中

おのゝこゝろのまゝに  
こゝろのまゝに

旅の神  
旅の神

旅の神と祝  
旅の神と祝

山縣連中

山縣連中  
山縣連中  
山縣連中

まらふく〜二章〜一〜なるぬまふ 松山

まらふく〜二章〜一〜なるぬまふの月 梨雪

まらふく〜二章〜一〜なるぬまふの月 文可

まらふく〜二章〜一〜なるぬまふの月 松山

松山一連中

馬鹿二百里の向うと信じて平多なる  
唐人の言の由話の由り〜

と清のうやけや松の唐錦 豊年

次類酒者

其酒

中酒のふらふら〜打ねふ 松山

清酒よいり〜残り松のきり 不馬

清酒よいり〜残り松のきり 松二

清酒よいり〜残り松のきり 松二

清酒よいり〜残り松のきり 松二

清酒よいり〜残り松のきり 松二



ついでに文を讀むもさうなれども友のそなた  
ふとと倦てから寝ての志の人くあめく  
ふととの顔と探してそなたのそなたと探る

山雀

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

ふとよ

ふとよふとよふとよふとよふとよふとよ

厚

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

ふとよ

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

麻

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

ふとよ

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

松

山雀のそなたをさうなれども旅をさう

伊尾連中

行ふか(仰る)お月さん 越ん  
ゆりともはなよめうても村家 こそ  
月さの縁とほしや小田の下 一春  
ねま月の初甲斐文一郎 福地山 松を  
神あふといひのこねわらぬま 誓竹  
蔭お枝のあけふちあけぬか常家 楊竹

尾跡千鳥が連中

昔年のものおのるれ首途のあむりうまひはこそ  
ちうぬひのいぶお九折ともころりしを所の余ありて  
より縁新あふをいふに里あちわあきのさ地を  
師のそ供とせけらよのまゝおはよめさ(おは)  
自若してまのぢゆあありきりかやそくぢ  
こいさる御堂の人くと胡女(おへい)一人の代と  
隔てゆりせし思の縁よささかひはてらる  
こころも一里も二里もあはひまはらなるおはるる  
ぢゆ(おは)山にのきまこまの福あふを娘と  
アッそし故よけ地の連糸まおの公名と取て  
ゆりともはなよめうても村家 こそ

巻六

福山

ふら庵

山崎の松月

道

山崎の松月

山崎

山崎の松月

不破

山崎の松月

長

山崎の松月

長

山崎の松月

山崎

山崎の松月



諸國文通

堀の葉よわらぬは風の中

城下教習  
車窓

壁は小人のゆきをうらなふ

舟中  
花枝

空とわらわぬも息をうらなふ

田的

春の雲のやうな文もふりかへ

柳枝

まなこは目わくとわくまなこ

海石  
六根

砕て砕てよ本はよしの如ふ

玄駁

子とあはく園庭も踏むよひ

打遠

竹の子に伴らるるわき子供

有施

伽藍のしを舞をこよる葉の葉

水巴

江戸のこゝろをきこふ所の

景絶

そくくくくくくくくくくく

世藩

女房の隠しごとや河原け

新泉

帝のやうやうのいふ本権

根前

あつたつたつたつたつた

い候

縁

中



ハ朝や夜かのくさる月まきし

七行や七よりのくさる月まきし

しるもよりのくさる月まきし

揚かしくはほのくさる月まきし

福書よりのくさる月まきし

みねとよりのくさる月まきし

はよりのくさる月まきし

二のくさる月まきし

知子

今村

東也

望水

三國

所裏

加賀大工寺

実芝

栞石

仁仁

千代

小吉

小野

タウヤのきりのちやちや月

りるやちりのちやちや月

耕せしちりのちやちや月

二日月の地ちりちり月

ちりのちりちり月

ちりのちりちり月

ちりのちりちり月

ちりのちりちり月

金波

山清

飛亮

希同

以曲

生可

金奈

ちり

杉多し、虫を鳴りて枯野に 絶也七尾 司部

しつゝ鳥ありて居るの上 交嘴

まもるやの喜ゆと云 誠中石動 方望

初々ふるふ、あはれ 雲江

まの親もあはれ 柳腰

まのこゝろ 壺子

ら 可由

まのこゝろ 眉家

ま 潘

深 壺

高 樹

川 水

ら 文

行 旅

お 高

也 葉

随あけ心あけと柳かえ久 風吹

海士人の好ゆやちの家 古里叔建中 藤証

や柳の中よ小まの柳の字 柳里

柳く花と柳んとあふふ 石雄

柳原のそましと柳の字 子門

柳原の小ましと柳の字 柳法師 穆士

柳く花と柳く花とあふふ 柳法師 九候

柳原の柳のそましと柳の字 柳法師 柳亭

てとやますよとく次清 可者

高車の内りや柳の字 日和虹 張吉

も京の柳よとくやちの字 長石

よ柳も紅の柳の字 柳一系 五方

柳の柳のてとくやちの字 若吉

柳の柳のてとくやちの字 柳一系 一系

柳の柳のてとくやちの字 柳一系 瑠石

柳の柳のてとくやちの字 柳一系 柳

柳一系

お撲ころ中へゆく一ちよふ  
鹽人もの体やけけ地  
るあまのりよ勢きつるあゝ  
お起のえやこまゆくも本様  
まゝるやよのふとまき丹う  
やういさのこびり刑ふふやの月  
振あまのから花もあり山様  
古くは様と様よはを免ふ  
己子  
佐白  
晩涼

角とま市とく淋一木の麻  
きこみや木あゝの麻の川向  
巳午あまの破てゆふやらの  
細るの標はまやあづ  
おのまてへのりあゝあゝ  
おののまあねまやあづ  
おののまあねまのふてやあ  
あゝあゝのあまあゝあゝ  
あゝあゝのあまあゝあゝ

杜亭

小松

互超

二松

欽石

巴松

お言

若松

おぼし一ねのほのちやえん 千波 林江

きの月もあふ 馬山 二川

きやねや橋のほ神の 魚住 侍彦

漕うもく橋りや 玉花 若神

名月やあふ 二日市 枝中

物ゆも 信柳

観ん 如 求己

布の 松守

うし 阪平

判 紙後 丸蛸

お 松里

ま 分町 白虎

ち 巻耳

布 毛浮 崎洲

と 西本園

沖 世夜

夜と掃日初とあはれとさうな 山市

照るよと下へのつらさなるあはれ 出たがた 英名

多岐や海を極のほいどく 英名

鳥都や入あはらしたあはれ 落恩 何事

大極と清くまきり 落恩 何事

かゝ舞ふ極くまきり 秋向 也柳

あまのやまのうまわて 秋向 也柳

流佛や耳あまのあま 秋向 也柳

あまのほくたろく 秋向 也柳

連きと飽く 秋向 也柳

あまの極く 秋向 也柳

三休の宵 秋向 也柳

山あま 秋向 也柳

あまの極く 秋向 也柳

地障る 秋向 也柳

あまの極く 秋向 也柳



いふのうも暇け恵のきりり あま外

あつしも屏向の名あり 中津川 藤先

世の中とつらやき花の目八 岩村 推巴

あつしちのちあやまのり 小野 随風

あつしあつしあつしあつし あつし

あつしあつしあつしあつし あつし

あつしあつしあつしあつし あつし

あつしあつしあつしあつし あつし

京と竹二条  
橋を流るる  
あつし



